

月刊

ホテル旅館

[提携誌] The Cornell Hotel and Restaurant Administration Quarterly

Hotel Ryokan
Management

2008

1

特集 ホテル料飲施設 改装秀作選

「新年号特別企画」

経営者トップ89人年頭所感

「2008年、わが社の展望と課題」

リニューアル

奥湯河原の料亭旅館2軒が相次いでリニューアルオープン

神奈川県湯河原温泉の料亭旅館「懐石 海石榴」と「京ゆば懐石 山翠楼」を運営する株式会社山翠楼は、このほど、2館を改装オープンした。

海石榴は、個人客対応として高齢者の利用客に向けてベッドルームを付帯する和洋室9室を新設、そのうち5室を露天風呂付き客室としていた。また、若い世代の女性客向けに、シングルルーム1室、ダブルルーム1室からなるスバ「Ichin」を開設。スバは2007年10月15日にオープン、客室は11月10日にオープンした。

Ichinでは、ボディトリートメントに続き、海石榴オイルをブレンドしたオイルを額に受けるシロダーラを取り入れた「海石榴オイルシロダーラ」(90分2万5500円)をシグネチャートトリートメントとして用意。その他にも「バランシングボディ」や「GREEN TEA ボディスクラブ」

(各90分2万5500円)、その日のコンディショニングや悩みに合わせ、スパセラピストがカスタマイズする「スパエクスペリエンス」(2時間3万円)など、豊富なメニューが揃う。すべてのトリートメントは、シンキングボール(瞑想鈴)の響きとゆらぎの周波数を身体に感じながらチャクラバランスを整える「エンリチュアル」から始まるのが特徴だ。

一方、山翠楼は10月1日、屋上に山懐に抱かれた湯河原温泉郷を一望できる展望露天風呂「大空」を新設。11月1日には、館内にスパトリートメントルーム「E」を開設した。さらに同館は「源泉第」「常盤第」「源氏別館」「桃山第」の4棟から客室を構成しているが、桃山第に2室、源泉第に6室、露天風呂付き客室を整備している。

いずれも、これまで主客層だった富裕層の年配客に加え、30歳代、40歳代の個人客を誘客するための設備投資という位置付けだ。本格的スパルームの新設や露天風呂付き客室、和洋室の増設などで、特に女性、高齢者の利用客への訴求力アップをめざしている。

販売支援

国土交通省が旅館の客室販売を支援する事業に対して予算を計上

国土交通省は08年度予算の概算要

求に「観光産業のイノベーション促進事業」として8000万円を盛り込み、旅館の客室販売支援に乗り出す方針を固めた。同省が旅館関連の予算を計上するのは初めてで、観光関連団体などによる実証事業を公募し、第三者機関が選考。実際に行なった事業の結果や効果を分析した後、09年度以降に普及活動に取り組む。

想定する事業は、複数の中小旅館の客室を集めてひとつの大きな旅館として扱う「バーチャル旅館」や宿泊日間の空室販売を促進する「旅館アウトレットモール」など。前者は同じ地域に建つ中小旅館がインターネット上に仮想旅館を構築し、空室を一元管理して共同で販売するもの。団体客を分散して受け入れたり、満室で断っていた個人客を他館に誘導したりすることで、客室稼働率の上昇が見込める利点がある。後者は、売れ残ったため旅行会社から返された客室を集め、仮想モールを形成。モールの利用を会員制とし、会員向けの値引き販売などで客室稼働率を引き上げる仕組みだ。

連泊推進

館山寺温泉観光協会が泊食分離を促すプランと独自の地域通貨を発行

静岡県浜松市西区の館山寺温泉観光協会は07年10月15日から08年2月29日までの期間限定で、泊食分離を

推進する1泊朝食付きのプラン「ゆったりゆとりの温泉ステイ」を販売。合わせて館山寺町初の地域通貨「かんざんじだらあ」を発行している。

同プランは、浜名湖かんざんじ温泉の旅館9軒で1泊朝食付き料金を一律8000円(2名1室利用時の1名料金。税込込み。山水館欣龍のみ1万円)に設定したプラン。参加しているのは、山水館欣龍、館山寺サゴロイヤルホテル、旅館喜楽、遠鉄ホテルエンバヤ、時わすれ開華亭、館山寺レイクホテル花乃井、浜名湖かんざんじ荘、ホテル鞠水亭、浜名湖グランドホテルさざなみ館で、従来の1泊2食付き型から選択肢を広げ、連泊を推奨するのが狙いだ。プランの利用は平日限定だが、2泊目以降4泊目まで1000円ずつ宿泊料金を割引き、4泊目以降は1泊朝食追加ごとに5000円のプラスとなる。

一方、宿泊した旅館で購入可能な同町オリジナルの地域通貨は、500円分を4500円でプラン利用者に販売するもので、飲食店14軒や浜名湖オルゴールミュージアムなどの観光施設、遠鉄タクシーで使用できる。町の回遊性を高め、旅館内で完結する従来型の旅行形態から館山寺町全体を楽しんでもらうスタイルへの転換をめざしており、08年2月まで試験的に導入する。

Topics

トピックス

●湯めぐり手形を発行

北海道・鹿部温泉旅館組合は12月1日、町内の日帰り入浴が可能な温泉旅館などで利用可能な「湯めぐりガラスパ手形」を発行した。手形は鹿部商工会サービス部会との共同企画で、鹿部商工会や鹿部町役場などで1枚1000円で販売。08年3月末までの期間中、「鹿部ロイヤルホテル」「温泉旅館こにし」「公衆温泉浴

場とらの湯」「温泉旅館鹿の湯」「温泉旅館吉の湯」「公衆温泉浴場亀の湯」のうち、異なる3カ所を入浴できる。このほか「しかべ間歇泉公園」の入園券や、町内の飲食店2店で50円引きやホタテ握り一貫といったサービスが受けられる特典も付帯。手形1枚につき、町の基幹産業である漁業で用いるガラス玉の小型模型も付く。

町内外の人に複数の温泉を気軽に楽しんでもらい、冬季の利用促進を図るのが目的だ。

●静岡県の温泉旅館が民事再生

静岡県伊東市で温泉旅館「大和館」を経営する伊東大和館と関連会社の株下田大和館は11月5日、東京地裁に民事再生法の手続開始を申し立て、同日保全命令を受けた。今後の経営については、ジェイ・ウィル・パートナーズ(東京都)がスポンサーとなり、同社の支援のもとで再建をめざすことが決定しており、旅館業の運営はこれまで通り継続していく。

●湯快リゾート運営のもと再生へ

07年9月に競売に掛けられ、ジェ

ネル(東京都)が落札した鳥取県三朝温泉の老舗旅館「芥木別館」は、湯快リゾート(京都市)が運営し再生に乗り出すことがわかった。湯快リゾートは、全国で廃業、経営不振に陥った温泉旅館を買い取り、経営再建する事業を進めており、「越ノ湯」(和歌山県那智勝浦町)や「山中グラ

ンドホテル」(石川県加賀市)で実績を持つ。芥木別館については、同社の売り物である格安料金での販売はせず、これまでの格式、伝統を受け継ぎ、地元と共存共栄を図る方針だという。

個性派旅館の私的見聞録

オフィス アト・ランダム 松坂 健

大相撲の荒廃は、地方巡業での「旅館離れ」が原因か

朝青龍問題や「かわいがり」で、今、大相撲の世界が揺れに揺れているけれど、そのことについて、元大横綱の大鵬さんが、こう言っているのだぞ。

大相撲の地方巡業でみんなが旅館に泊まらず、ホテルに宿をとるようになってから、相撲界が悪くなった、と。

大鵬・柏戸時代までは、地方巡業と言えば、その土地の旅館に全員が投宿して、横綱級は別だろうが、大部分の力士、裏方が相部屋で過ごしていたという。

朝青龍のこと話になった地方巡業というのは①なかなか本物を見られない地方の人たちへの利益還元、アピール②地方にいる相撲に向けた才能の発掘③そして、一緒に旅することで結束を固めるという3つの目的がある。そのなかの①②はともかく、③については大鵬さんたちが一線をしりぞいたのちの指導者たちが、これからのお相撲さんには個室の方が健康管理的な面でもいいだろう、ファンから身を守るにもいい、といった理由で、宿泊先をホテルに変えたというのである。大鵬さんの言

い分は、そういうシングルルームが同じ相撲の仲間意識というものを薄めさせたし、また相撲のモラルといった無形の価値を伝授する機会を奪ったということらしい。「旅館派」には嬉しい指摘だろう。たしかに、個室の方が快適だろうが、旅館には旅館でなければ味わえないような、宿泊者同士の「コミ

ユニケーションの濃度」というものがある。実は、この話題を出してくれたのは、大鵬さんの義理の弟にあたる秋田の小国輝也さん。先日、7、8年ぶりにお会いできて、川反で一杯やれる機会が持てたのである。小国さんの都市旅館、榮太郎はご承知のように、数年前、建物の老朽化もあって廃業しているが、今は菓子メーカー一本で元気に活躍されておられる。それでも、「お宿」の話になると、いつしか熱が入ってくる。いつかはどこかでまた旅館をつくりたいという気分もあるとお見受けした。ある意味で、それほど旅館の商売には「業」の深さがある。お客さんに夜を明かさせる仕事な